

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
思・判・表	社会的な思考・判断・表現
技能	観察・資料活用の技能
知・理	社会的事象についての知識・理解

(◇：「活用」に関する問題)

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	活用	評価の観点	設定通過率(%)	通過率(%)		
第3・4学年	(5)ア	1	(1) 昔の道具（ランプ、洗濯機）の使い方を理解している。		知・理	75.0	79.2	
		(2) 火や電気を使って料理をつくる道具の移り変わりを指摘することができる。		知・理	90.0	98.7		
	(4)ア	2	(1) 複数の資料を読み取った内容を基に、条件に合った警察の仕事表現することができる。	◇	思・判・表	60.0	88.2	
			(2) 複数の資料から読み取った内容を基に、地域の人々の取組の目的を考えることができる。	◇	思・判・表	50.0	91.9	
	(1)ア	3	(1) 写真から読み取った土地の様子に適する地図記号を指摘することができる。		思・判・表	90.0	85.9	
			(2) 地図から読み取った自然条件と社会条件を関連付けながら、その場所に適する地図記号を表現することができる。	◇	思・判・表	65.0	47.8	
			(3)	① まちの様子を説明するカードと地図を比較し、正しいまちの様子を説明するカードを判断することができる。		思・判・表	60.0	70.3
				② 指定された場所の特徴を地図から読み取り、その内容を文章で表現することができる。	◇	思・判・表	45.0	69.9
	(5)ウ	4	(1) 土地利用の仕方の変化を2つの地図を比較して考え、文章で表現することができる。	◇	思・判・表	75.0	49.0	
			(2) 西根せきができた理由を文章資料から読み取り、適切な文を指摘することができる。		技能	70.0	45.0	
			(3) 上せきの工事の方が大変だったとする考えの根拠について、年表を読み取り、文に表すことができる。	◇	技能	50.0	56.6	
	(6)イ	5	(1) 地図に示された情報を手がかりに、等高線の意味を表現することができる。	◇	知・理	35.0	39.2	
			(2) 地図中の指定された場所の等高線の間隔に着目し、土地の傾きを表現することができる。	◇	思・判・表	50.0	73.7	
			(3) 条件に該当する断面図を指摘することができる。		技能	50.0	69.0	
	(6)イ	6	(1) 青函トンネルにつながっている半島名を理解している。		知・理	60.0	74.2	
(2) 白神山地の位置を理解している。				知・理	50.0	67.9		
(3) 2つの地図を比較し、人口の多い地域と土地の高さを関連付けて考え、文章で表現することができる。			◇	思・判・表	35.0	26.9		
第5学年	(1)イ	7	(1) 資料から、山地が海岸線までせまってきたことを読み取ることができる。		技能	45.0	63.9	
			(2) 資料から、山地と平地の割合を読み取ることができる。	◇	技能	55.0	58.0	
			(3) 資料に示された情報を手がかりに、盆地の意味を表現することができる。	◇	知・理	40.0	54.2	
	(2)イ	8	(1) 資料を用いて、適切な県名を指摘することができる。		知・理	55.0	71.6	
			(2) 資料に示された地域でみかんの生産がさかんな理由を、気候の特色から表現することができる。	◇	思・判・表	70.0	68.1	
			(3) 問題文に示された予想を確かめるために必要な資料を想起し、表現することができる。	◇	思・判・表	55.0	29.6	
	(1)ア	9	(1) 日本と同じ経度にある国を資料から読み取ることができる。		技能	75.0	41.6	
			(2) 緯度が0°の緯線は赤道であることを理解している。		知・理	85.0	71.1	
			(3) 条件に合う国名を指摘することができる。		知・理	65.0	63.2	
(4) 日本の北の端に位置する島を指摘することができる。				知・理	65.0	82.3		

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東青管内			西北管内					
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	(1)	昔の道具の使い方の理解	75.0	80.4	80.6	78.0	78.2	77.6	78.4	78.7	
	(2)	昔の道具の移り変わりの指摘	90.0	98.8	98.8	98.4	99.1	98.9	99.2	99.2	
2	(1)	条件に該当する警察の仕事の説明	60.0	91.5	91.8	85.8	87.6	88.1	86.3	88.0	
	(2)	条件に該当する地域の人々の取組の説明	50.0	92.0	92.0	92.9	92.4	90.6	95.0	92.4	
3	(1)	条件に該当する地図記号の指摘	90.0	89.3	89.4	88.2	87.9	88.9	90.9	84.9	
	(2)	条件に該当する地図記号の表現	65.0	52.4	52.4	52.8	44.6	43.9	48.5	42.6	
	(3)	①	条件に該当するまちの様子判断	60.0	71.8	71.8	72.4	70.3	70.4	73.4	68.1
		②	条件に該当するまちの様子説明	45.0	71.7	71.9	68.5	67.8	65.2	77.2	64.1
4	(1)	土地利用の仕方の変化の説明	75.0	49.4	49.7	42.5	49.4	47.4	53.9	48.5	
	(2)	条件に該当する内容の判断	70.0	50.5	50.9	43.3	37.6	37.7	39.4	36.1	
	(3)	示された事象を判断した根拠の説明	50.0	59.8	60.2	52.8	58.1	59.3	61.8	54.3	
5	(1)	等高線の意味の理解	35.0	46.0	46.7	32.3	39.0	39.4	42.3	36.4	
	(2)	等高線を読み取った内容の説明	50.0	76.2	76.8	65.4	69.8	69.0	74.7	67.2	
	(3)	等高線の断面図の読み取り	50.0	69.3	69.7	61.4	65.1	65.5	69.7	61.6	
6	(1)	津軽半島の名称の理解	60.0	76.3	75.8	86.6	74.1	79.8	73.4	68.6	
	(2)	白神山地の位置の理解	50.0	71.0	70.8	74.8	69.6	69.5	72.6	67.5	
	(3)	人口の多い地域と土地の高さの関係の説明	35.0	29.2	29.3	28.3	27.9	27.5	30.3	26.6	
7	(1)	山地と海岸の位置関係の読み取り	45.0	65.6	65.7	63.8	62.6	61.5	63.1	63.6	
	(2)	山地と平地の割合の読み取り	55.0	59.5	59.1	66.1	58.2	55.5	60.2	59.7	
	(3)	盆地の意味の理解	40.0	56.2	56.3	53.5	50.6	55.8	53.5	43.1	
8	(1)	条件に該当する県名の指摘	55.0	72.8	73.3	63.0	69.3	70.3	80.1	60.7	
	(2)	条件に該当する気候の特色の説明	70.0	70.6	70.3	76.4	70.5	74.4	74.3	64.2	
	(3)	追究に必要な資料の指摘	55.0	31.1	30.3	46.5	31.6	31.9	38.2	26.7	
9	(1)	条件に該当する国の指摘	75.0	42.8	42.7	44.9	40.9	38.5	51.0	36.4	
	(2)	赤道の名称の理解	85.0	68.3	67.7	78.0	68.6	64.7	75.1	68.3	
	(3)	条件に該当する国名の指摘	65.0	63.1	63.3	60.6	62.7	65.2	66.8	57.4	
	(4)	択捉島の名称の理解	65.0	82.3	82.1	85.8	79.9	81.9	86.7	73.1	
教科全体（全小問の総正答数÷全小問の総解答数）			60.0	66.2	66.3	65.3	63.5	63.7	67.3	60.7	

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内		県全体	
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
75.6	75.6	82.8	71.0	74.2	82.2	84.3	85.5	79.4	76.3	76.5	75.6	80.1	81.2	75.3	79.2
98.2	97.6	98.1	100.0	99.2	98.8	98.9	98.8	98.7	99.3	99.1	100.0	98.7	98.8	98.5	98.7
85.6	86.8	90.7	79.9	81.6	88.3	87.6	88.8	88.5	85.7	87.7	78.7	87.6	87.9	86.1	88.2
92.2	91.7	94.9	93.3	91.0	91.3	92.7	88.2	91.9	90.6	91.7	86.6	91.9	92.4	89.9	91.9
83.4	84.0	84.7	78.4	84.8	90.6	91.6	91.7	89.5	79.6	80.5	76.4	82.1	81.5	84.6	85.9
43.9	40.8	58.1	41.6	49.2	51.1	53.2	43.1	53.5	36.8	40.5	23.6	48.4	46.8	55.1	47.8
67.7	66.5	70.7	71.0	67.6	74.5	76.1	76.7	72.6	73.3	74.3	70.1	67.5	68.5	63.0	70.3
65.4	63.5	79.5	63.9	64.1	72.6	76.1	67.8	72.6	64.8	68.0	53.5	72.0	71.6	73.6	69.9
45.5	44.8	55.3	41.6	44.9	48.8	53.4	45.1	47.7	47.6	50.8	36.2	51.9	51.8	52.2	49.0
40.4	40.6	34.9	43.1	41.4	47.4	51.4	44.0	46.5	41.8	41.8	41.7	45.5	45.8	43.8	45.0
51.8	51.7	55.8	48.7	52.3	61.4	66.5	58.4	59.7	46.9	47.9	43.3	56.0	56.5	54.0	56.6
42.1	42.4	41.9	38.7	44.5	35.8	35.3	24.5	41.2	34.3	36.9	25.2	33.1	31.3	40.7	39.2
74.7	74.0	79.5	73.6	75.0	74.9	77.4	72.6	74.4	63.1	64.4	58.3	73.8	73.8	74.0	73.7
68.8	67.9	73.0	70.6	67.6	69.8	71.0	68.7	69.5	64.8	65.8	61.4	70.9	71.2	69.4	69.0
73.2	74.8	74.0	68.3	70.3	74.5	73.2	76.6	74.4	79.1	79.9	76.4	71.4	70.8	74.0	74.2
71.1	76.3	69.8	61.9	56.3	66.0	63.0	66.3	67.8	65.9	64.4	70.9	63.0	62.0	67.2	67.9
24.7	24.4	20.0	23.5	31.6	25.6	27.1	26.6	24.3	19.7	20.8	15.7	28.4	28.2	29.3	26.9
63.0	61.4	67.9	65.4	63.7	65.8	69.6	63.7	64.4	61.1	63.1	54.3	62.9	63.6	60.1	63.9
57.0	55.5	66.0	60.2	53.5	63.4	63.6	64.3	62.9	51.2	50.6	53.5	55.2	55.9	52.4	58.0
51.0	52.5	48.4	45.4	52.3	54.7	62.7	49.6	52.2	58.0	61.5	45.7	55.0	54.7	55.9	54.2
70.4	70.3	71.6	72.1	68.0	72.7	77.1	73.2	69.6	69.7	68.7	73.2	71.9	72.7	68.5	71.6
63.5	63.5	69.3	62.5	59.8	67.8	70.7	63.7	68.0	65.3	63.8	70.9	69.5	70.6	64.8	68.1
27.9	27.4	34.9	29.7	22.3	29.4	36.9	22.1	28.2	25.3	26.4	21.3	29.8	28.3	35.9	29.6
37.5	35.0	43.3	39.8	42.2	52.4	57.1	45.7	52.7	37.8	40.3	29.1	38.0	39.6	31.1	41.6
66.9	65.4	65.6	67.3	75.0	74.3	79.3	61.1	77.2	73.7	74.0	72.4	76.0	76.1	75.8	71.1
64.0	66.0	67.0	54.6	61.7	64.7	65.6	56.3	68.1	58.0	56.8	62.2	62.9	64.9	54.6	63.2
80.6	80.6	81.9	78.8	81.3	85.3	88.7	80.5	85.4	82.6	83.2	80.3	82.8	83.7	79.1	82.3
62.5	62.3	65.9	60.9	62.1	66.1	68.5	63.1	66.0	61.2	62.2	57.7	63.9	64.1	63.3	64.3

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
人々の生活・ 先人の働き	5	1(2)	4(1)、4(2)	65.7	72.0
人々の安全	2	2(1)、2(2)		90.0	55.0
地域の様子・ 青森県の特徴	10	3(1)	3(2)、5(1) 6(3)	62.5	54.0
食料生産	3		8(3)	56.4	60.0
国土の環境	7	9(4)	9(1)	62.0	61.4

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題	通過率の低かった 問題	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
社会的な 思考・判断・ 表現	11	2(1)、2(2)、 3(1)	3(2)、4(1)、 6(3)、8(3)	63.8	59.5
観察・資料活 用の技能	6		4(2)、9(1)	55.7	57.5
社会的事象に ついての知識・ 理解	10	1(2)、9(4)	5(1)	70.1	62.0

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	主な誤答例(無答を含む) (かっこ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%であり、 調査全体の誤答の割合とは異なる)
4(2)	45.0	ウ(22.0)、ア(19.5)、無答(2.5)、イとエ(0.5)、アとウ(0.5)
5(1)	39.2	山の高さ(28.0)、傾き(13.5)、無答(6.0)、距離(5.0)、断面図(2.5)、 上から見た図(1.0)
6(3)	26.9	〇〇市(県内の任意の市)が一番高い(17.0)、高いところに市が集まっ ている(15.5)、無答(13.5)、南側が山地で北側が平地(8.0)、 山(あるいは平地)が多い(6.5)
8(3)	29.6	無答(22.0)、気候(12.5)、資料集等(7.5)、果物の資料(6.5)、 棒・折れ線グラフ(5.0)
9(1)	41.6	ア(35.0)、エ(5.0)、無答(3.0)、オーストラリア(2.5)、ロシア(1.5)、 アメリカ(1.5)、イ(1.0)、中華人民共和国(1.0)、大韓民国(1.0)、 北アメリカ大陸(0.5)

- [4](2)では、誤答の原因として、示された選択肢の内容が事実であるかどうかのみに着目し、学習問題と対応した内容であることを判断する力が不十分であったことが考えられる。
- [5](1)では、誤答の原因として、等高線の指導において示される教材の多くが「山」であると考えられることから、正確な理解が不十分で、適切に表現することができなかったことが考えられる。
- [6](3)では、誤答の原因として、土地の高さを示す資料から、「高いところ」と限定的に着目したため、もう一方の資料と適切に関連付けて思考することができなかったことが考えられる。
- [8](3)では、誤答の原因として、無答を含め、誤答が多岐にわたっていることから、気候についての具体的な意味を正しく理解していなかったことが考えられる。
- [9](1)では、誤答の原因として、「ア（アメリカ合衆国）」が多かったことと、「エ（インド）」や国名の記述の誤答が多かったことから、経線と緯線、経度と緯度について正しく理解していなかったことが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別についての課題としては、「食料生産」の学習の定着が挙げられる。

今後の指導においては、児童の問いを重視し、児童自ら解決に必要な資料を考え選び、学習問題を追究・解決していけるような問題解決的な学習を充実させる必要がある。その際、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、複数の統計資料の比較から問題意識を引き出し、問題解決の見通しをもって他者と協働的に追究するなどの学習過程を工夫することが大切である。

指導例

社会的事象から学習問題を見だし、問題解決の見通しをもたせる指導 ～単元名「水産業のさかんな地域」（第5学年）～

【指導の流れ】

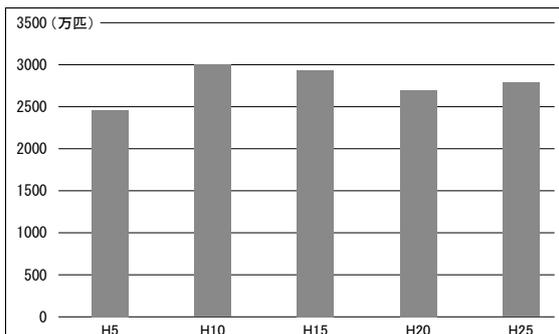
1 サケの放流数の変化と、サケの捕獲数の変化の資料を読み取り、学習問題を設定させる。

学習活動 サケの放流数と漁獲数の資料を比較して、気付いたことや疑問を出し合う。

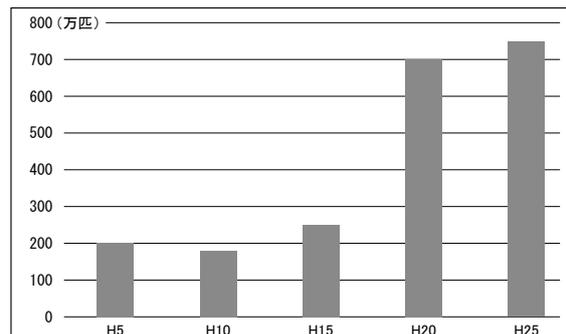


2つの資料を比較して、気付いたことはありませんか？

資料A ○○川のサケの稚魚の放流数の変化



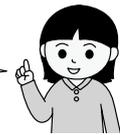
資料B ○○川のサケの漁獲数の変化





稚魚の放流数に、大きな変化はありません。

稚魚の放流数には大きな変化がないのに、漁獲数は急に増えています。特に平成20年は平成15年の約3倍に増えています。どうしてかな？



なぜ、放流数がほとんど変わらないのに、漁獲量が急に増えてきたのだろう？

ポイント

- ・資料の一部をかくしながら提示するなどの工夫によって関心を高めさせたり、焦点化させたりする。
- ・事象同士や事象と児童の認識の間に生じる「ずれ」から、「なぜ、AなのにBなのだろう」という「問い」を引き出して学習問題を設定し、追究することを明確にさせる。

2 問題解決の見通しをもたせる。

学習活動

学習問題に対する答えを予想し、解決に必要な資料を考えたり選んだりする。



答えを予想してください。そして、学習問題を解決するにはどんな資料があればいいか考えましょう。

サケを捕る方法が変わったと思います。だからわたしは、サケの漁法が分かる資料で調べたいです。



元気で大きな稚魚を育てることができたからだと思います。だからぼくは、サケの稚魚の育て方について分かる資料で調べたいです。



ポイント

問題解決的な学習における見通しは、学習問題に対する答えを予想させ、解決方法（解決のために必要な資料や活動）を明確にさせる。

評価の観点別にみた課題としては、「観察・資料活用の技能」が挙げられる。特に、「地図や地球儀などの各種資料を効果的に活用する技能」に課題が見られた。

今後の指導においては、問題解決の過程を通して「地図や地球儀を活用すると問題が解決できる」という実感を児童が感じるように指導することが大切である。

指導例

地図や地球儀を活用する技能を身に付けさせる指導 ～単元名「私たちの国土」（第5学年）～

【指導の流れ】

- 1 経度、緯度で国の位置を捉えることの大切さを実感させる。

学習活動①

地図と地球儀を使って、日本の東に位置する国を調べる。



日本の東に位置する国は、何という国ですか。

地図で調べると、アメリカです！



次は、地球儀で調べてみましょう。地球儀で日本を通る縦の線に紙テープを貼り、そのテープに直角に交わるように紙テープを貼ると、日本の東に位置する国が調べられます。



あれ？日本の東に位置する国は、南アメリカ大陸のチリという国でした。地図と地球儀では、日本の東に位置する国が違ってきます。どちらが正しいんだろう。



学習活動② 経線と緯線について理解する。



地図と地球儀では、どちらが正しい位置を示しているのでしょうか？

地球の形をほぼそのまま小さくした地球儀です。



地球儀が正しい位置を示しています。地図では、日本からの距離が離れるほど、他の国は正しい位置で示すことができなくなる特徴があります。他の国を地球上の位置で見るときは、経線と緯線を使って見ます。

経線と緯線とは何ですか？



経線は、地図や地球儀に示されている縦の線で、イギリスを中心に東西に180度まで分けています。緯線は横の線で、赤道を中心に南北に90度まで分けています。経度と緯度は、経線と緯線の位置を表すもので、地球上での位置を正確に表すときに使います。

ポイント

正しい国の位置関係について、地図上で表される位置と地球儀上で表される位置の違いから疑問をもち、課題を解決しようとする必要感をもちさせる。

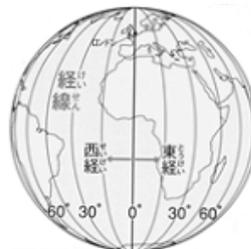
2 「経線・緯線」の理解を深めるためにワークシートで作業をさせる。

学習活動 地球儀の模式図に、経線と緯線を引く。

経線と緯線を模式図に引こう

※模式図に入れた区切り線を目安に作業をさせる。

- ・ワークシートの区切り線を目安に経線や緯線を引く。
- ・経線はイギリスのグリニッジ天文台を0度として引く。
- ・緯線は赤道を0度として引く。



ポイント

- ・ワークシートの区切り線を目安に、経線と緯線を引く作業を通して、縦が経線で東西の位置（経度）を示し、横が緯線で南北の位置（緯度）を示すことの理解を深めさせる。
- ・経線と緯線は1本ではなく複数あることや、赤道は緯線の基準であることに気付かせる。

3 経度と緯度を使って、地図と地球儀で国の位置を調べさせる。

学習活動 地図と地球儀で日本と同じ経度や緯度に位置する国を探す。



地図と地球儀で、日本と同じ経度に位置する国、同じ緯度に位置する国は、どこか調べましょう。

同じ経度に位置する国は、オーストラリアとロシアです。

同じ緯度に位置する国は、アメリカと中国です。

経度と緯度で調べると、地図でも地球儀でも国の位置は一緒でした。



ポイント

- ・導入場面において、日本の東に位置する国は地図と地球儀とでそれぞれ異なり、アメリカとチリを示していたが、日本と他の国の位置関係を経度と緯度で調べると、地図でも地球儀でも変わらないことから、経度と緯度の必要感を更に深めさせる。
- ・地図上では、経度と緯度を活用すると、距離の離れた国同士の位置関係を、より正確に捉えることができることを理解させる。
- ・経度と緯度を理解させておくことが、中学校での時差の学習等にも生かされる。

「活用」に関する問題についての課題としては、「社会的事象の見方・考え方」の視点を取り入れた授業づくりが挙げられる。「社会的事象の見方・考え方」とは、「社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること」である。

今後の指導においては、位置や空間的広がり、視点、時期や時間的経過の視点、あるいは、事象や人々の相互関係の視点によって、児童が問題意識をもち、調べたり考えたりすることができるように、発問等を工夫することが大切である。

指導例

「社会的事象の見方・考え方」を働かせる発問から、地図や年表を読み取らせる指導
～単元名「きょう土のはってんにつくす」（第4学年）～
※河川工事等を題材とした単元の場合

ポイント

- ・「社会的事象の見方・考え方」の視点から「問い」を考えさせる発問。

位置や空間的広がり

- ・どのように広がっているのだろう
- ・なぜ、この場所に集まっているのだろう
- ・地域ごとの気候は、どのような自然条件によって異なるのだろう

時期や時間的経過

- ・いつどんな理由で始まったのだろう
- ・どのように変わってきたのだろう
- ・なぜ、変わらずに続いているのだろう

事象や人々の相互関係

- ・どのような工夫や努力があるのだろう
- ・どのようなつながりがあるのだろう
- ・なぜ、〇〇と〇〇の協力が必要なのだろう

(文部科学省「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」より)

・実際の授業では、上記の例だけにとらわれず、学習のねらいや資料の内容を踏まえて発問し、空間軸（位置や空間的広がり）、時間軸（時期や時間的経過）、事象や人々の相互関係の視点で「問い」を考えさせる。

【指導の流れ】

1 2枚の地図を比較させ、変化を読み取らせる。

学習活動 2枚の地図を比べて、どのように変化したのかを読み取り、その理由を考える。

〇〇年頃の
△△地区

□□年頃の
△△地区



川の流れは、どのように変わりましたか？









時期が異なる同じ場所の地図



水田は、どのように広がっていますか？

まっすぐになった川に沿って、水田が広がっています。

もともとあった川はまっすぐになっています。なぜかな？

水田が広がり、米がたくさん収穫できるようになって、人々の生活も変わったんじゃないかな…。

□□年頃の地図を見ると、あれ地だったところに細い川ができています。用水路かな？

ポイント

- ・時間軸と空間軸の視点で発問し、2枚の地図を比較させる。
- ・児童の「社会的事象の見方・考え方」を高めるために、分かったことだけでなく疑問も出させる。
- ・さらに、読み取ったことをもとにして、事象や人々の相互関係の視点で、人々の生活の変化について考えさせる。

2 年表から、人々が取り組んだことを読み取らせる。

学習活動 年表から、人々がどのように作業を進めていったのかを読み取る。

河川工事等
に関わる年
表



1回目と2回目の工事では、どちらが大変だったと思いますか？









人々は、特にどんなことで苦労したと思いますか？

1回目だと思います。なぜなら、2回目よりも長い年数がかかっているからです。

私も1回目だと思います。年表に「〇〇地区に用水路をつくる」と書いてあって、地図を見ると、〇〇地区はあれ地だったからです。

〇〇年に「大雨で川がはんらんする」とあります。せっかく工事したところをやり直すのは大変だったと思います。



川がはらんしないように、どんな工夫をしたと思いますか。
次は、文章資料で調べてみましょう。

ポイント

- ・主に時間軸の視点で発問をし、年表を読み取らせる。
- ・地名などをもとに、年表と地図を関連付けた見方をさせる。
- ・年表上に並列で並んでいる出来事を、「特に苦労したことは？」「特に重要な出来事は？」などの発問によって、人々の苦労や努力など、事象や人々の相互関係で考えさせる。
- ・「社会的事象の見方・考え方」をより働かせるために、文章資料は地図や年表と関連付けながら読み取らせる。

キ まとめ

内容・領域についての学習状況は、「人々の安全」及び「地域の様子・青森県の特徴」においては良好である。しかし、「人々の生活・先人の働き」においては、資料を正確に読み取ることや、複数の情報を比較したり、関連付けたりして考える力が十分とは言えない。また、「食料生産」においては、問題解決に必要な資料を検討する力が十分とは言えない。

今後の授業改善においては、学習問題づくりに加え、どんな資料があれば解決できるのか、どんな追究活動をすれば解決できるのかといったことを児童に考えさせたり、話し合わせたりするなどして、見通しをもつ場面を充実させることが大切である。

評価の観点からみた状況は、「社会的事象についての知識・理解」においては、概ね良好である。しかし、「観察・資料活用の技能」においては、十分とは言えない。

今後は、主体的な追究活動の土台となる資料の読み取りの指導を充実させたい。そして、児童の思考の流れに応じて資料を工夫しながら提示し、資料が示す事実を正しく読み取ったり、複数の情報を比較・関連付け・総合して思考したりする学習活動を適切に位置付け、観察・資料活用の技能を高めたい。その際、「情報全体の傾向を踏まえた読み取り」「必要な情報を選んだ読み取り」「複数の情報を見比べ結び付ける読み取り」「資料の特性に留意した読み取り」に留意することが大切である（参考：「社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」（平成28年8月26日）資料7）。

「活用」に関する問題の状況は、昨年度に引き続き、設定通過率を上回る問題が多く、活用問題13問の平均通過率が設定通過率の平均を上回った。しかし、2つ以上の資料を関連付けて答えを導き出したり、資料から拾い上げる言葉がなく自分の言葉で表現したりする力については不十分な点も認められる。

今後は、「空間」「時間」「対象や人々の相互関係」を視点とした社会的事象の見方・考え方を働かせる学習活動を充実させ、学んだことや得た情報を活用して「比較」「関連付け」「総合」しながら考え判断し、自分の言葉で表現する力の育成につなげたい。